

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(24年1月)
—前年比は7%台半ばで横ばい推移

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比は7.4%

2月15日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(24年1月)】

- ・前年同月比は7.44%、市場予想¹(7.30%)より上振れ、前月(7.42%)からやや上昇(図表1)
- ・前月比は0.86%、市場予想(0.70%)より上振れ、前月(0.73%)から加速

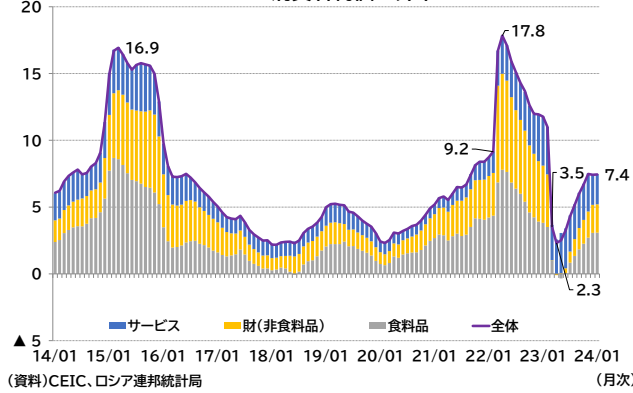
【コア指数²(24年1月)】

- ・前年同月比は7.15%、前月(6.83%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は0.60%、前月(0.41%)から加速した

(図表1)

(前年同月比、%)

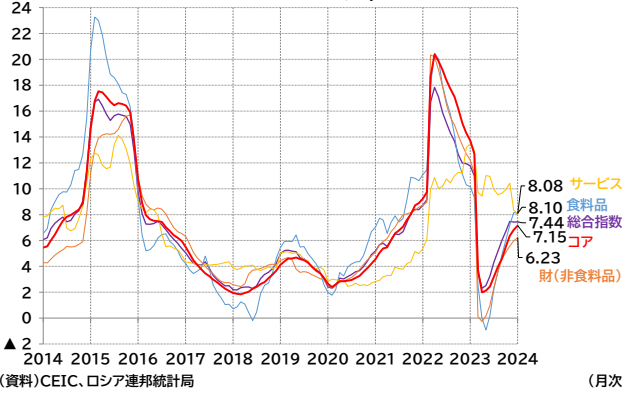
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



2. 結果の詳細:インフレの状況は23年12月から概ね変わらず

1月のロシアのインフレ率は前年比で7.44%となった。23年11月以降の上昇率はおおよそ7.4%の横ばいで推移しており、ロシア中銀のインフレ目標(4%)は7か月連続で上回っている。

インフレ率を大分類別に見ると、1月の前年比伸び率は食料品が8.10%、財(非食料品)が6.23%、サービスが8.08%となり、食料品が概ね横ばい、財(非食料品)が上昇、サービスが低下となった。

前年比寄与度ではサービスが2.3%ポイント程度、食料品が3.1%ポイント程度、財(非食料品)が2.1%ポイント程度となり、前月とほぼ同じ寄与となっている(図表1)。

1月の前月比伸び率は、総合指数で0.86%、コア指数で0.60%となった。前月(総合指数0.73%、

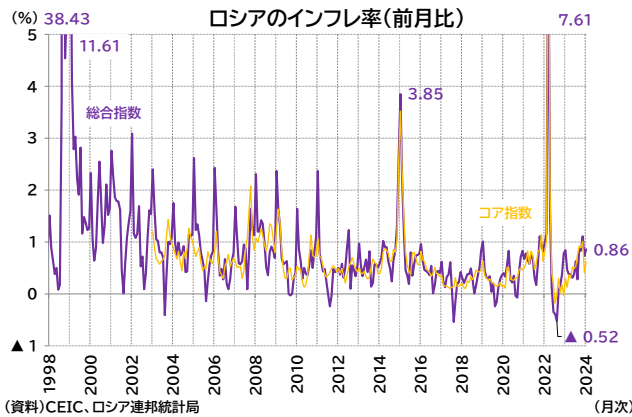
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

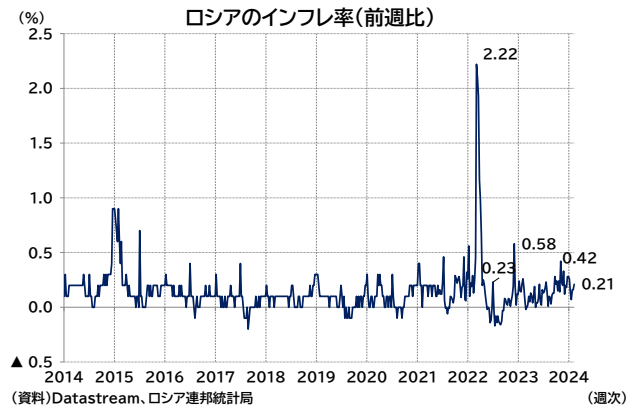
コア指数 0.41%) と比較し、いずれも加速した。また、総合指数・コア指数ともにコロナ禍前の標準的な上昇率を上回った状態にある (2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3)。前月比伸び率を大分類で見ると食料品が 1.26%、財(非食料品)が 0.47%、サービスが 0.78%となり、前月に引き続き食料品伸び率の高さが目立つ。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率 (消費者物価上昇率) を見ると、前週比上昇では最新の 2 月 12 日時点の前週比で 0.21% となった。1 月半ばにかけてインフレ圧力がやわらいだが、2 月に入って再びインフレが加速した (図表 4)。

(図表 3)



(図表 4)



ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待 (1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある) は、1 月には 12.7% まで低下した。その結果、過去の傾向 (過去の傾向は、期待インフレ率 = 前年比インフレ率 + 6%、図表 5) と比較すると、1 月の期待インフレ率は低めとなった。

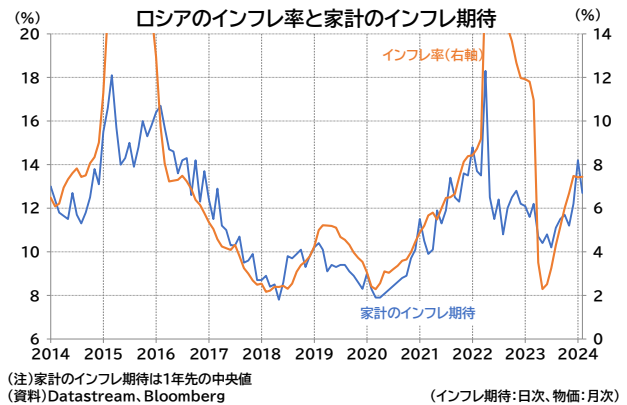
品目別の上昇率を見ると³ (図表 6)、1 月は前年比で卵 (59.05%)、その他サービス (40.45%)、海外旅行サービス (20.61%)、青果物 (19.64%) の伸び率が高い。一方、テレビ (▲6.05%) は相対的に下落率が大きい。

前月比では、青果物 (7.30%)、その他サービス (4.41%)、健康増進サービス (3.77%) の上昇率が相対的に大きく、卵 (▲1.81%) の下落率が相対的に大きい。

各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると (図表 7・8)、前年比上昇率への寄与が大きい品目は青果物 (0.90%ポイント)、肉 (0.71%ポイント)、その他サービス (0.64%ポイント)、家庭サービス (0.43%ポイント)、卵 (0.39%ポイント)、ガソリン (0.35%ポイント)、旅客サービス (0.33%ポイント) だった。

前月比上昇率の寄与では青果物 (約 0.34%ポイント) の押し上げ寄与が大きい。

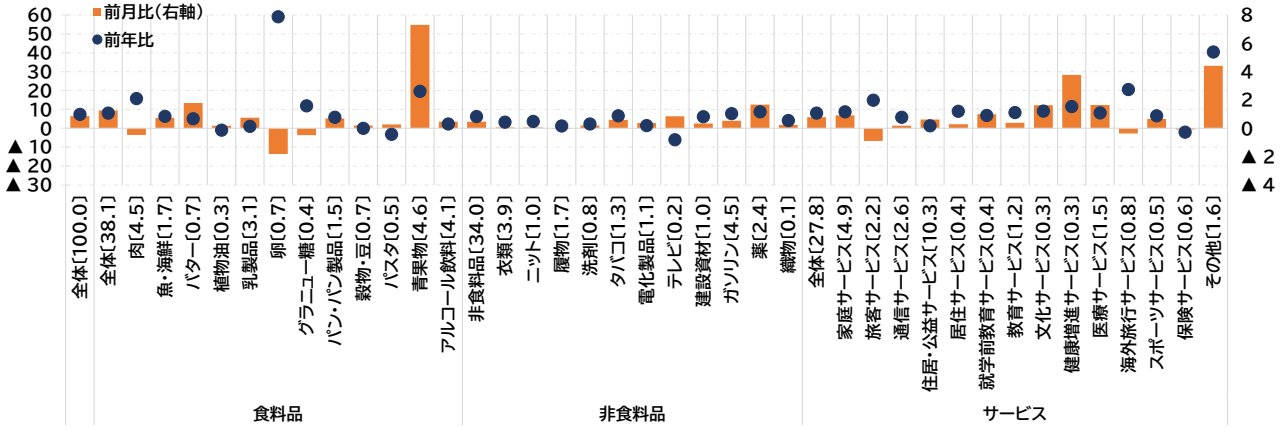
(図表 5)



³ 大分類である食料品、財 (非食料品)、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの (中分類) のうち、[統計局のウェブサイト](#) で公表しているものを記載。

(図表 6)

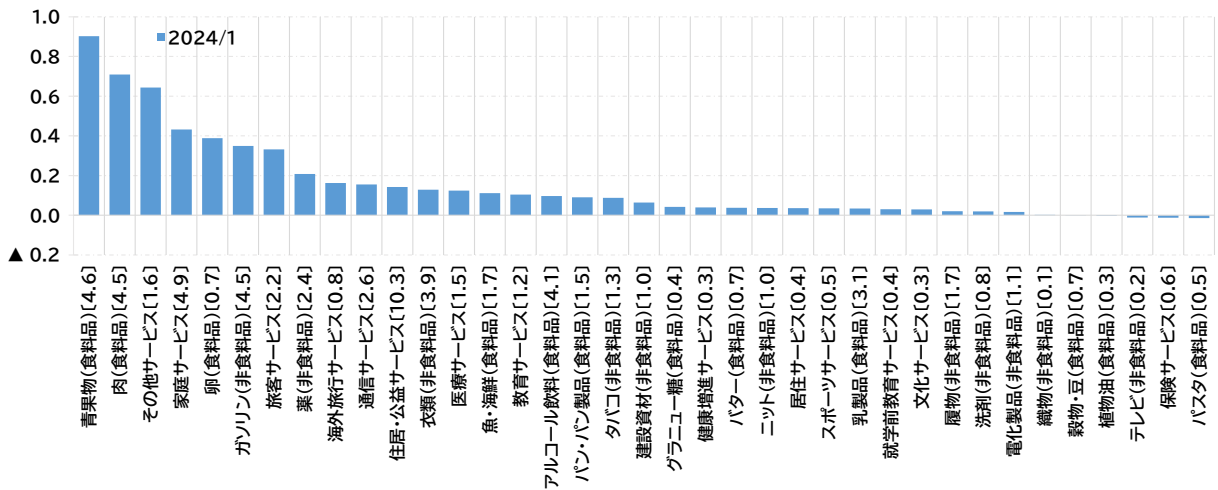
(前年比、%)



(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 7)

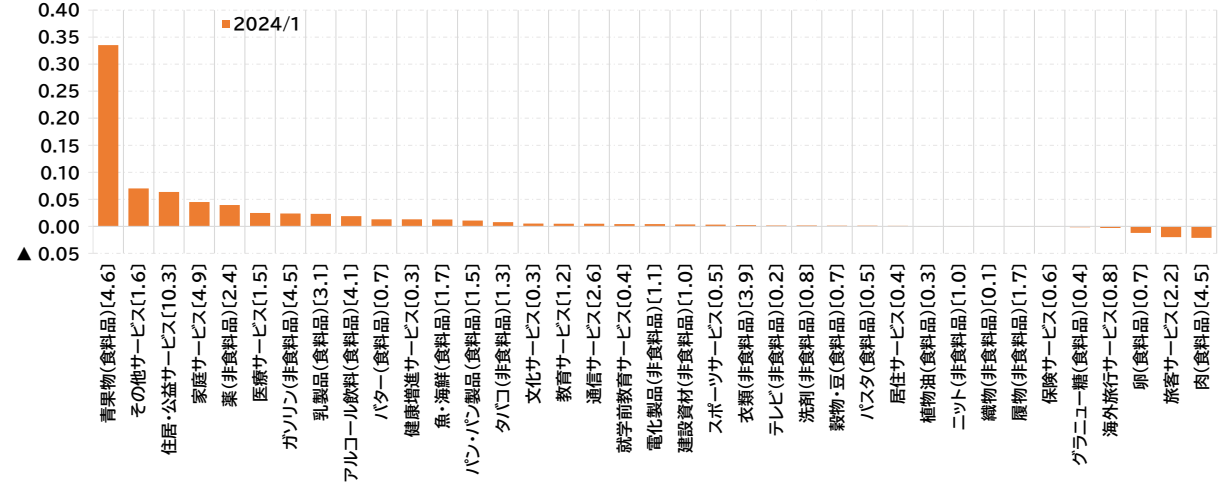
(前年比寄与度、%)



(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表 8)

(前月比寄与度、%)



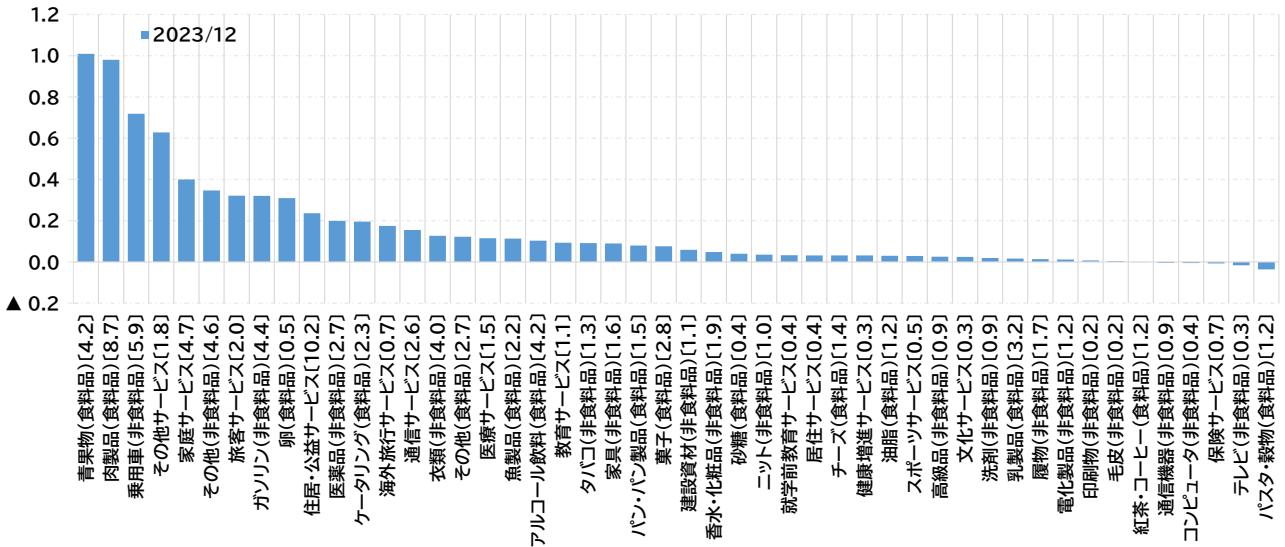
(注)大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない (資料)CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む12月の上昇率寄与を見ると、乗用車が前年比の物価を押し上げていることが分かる（図表9・10）。

（図表9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）

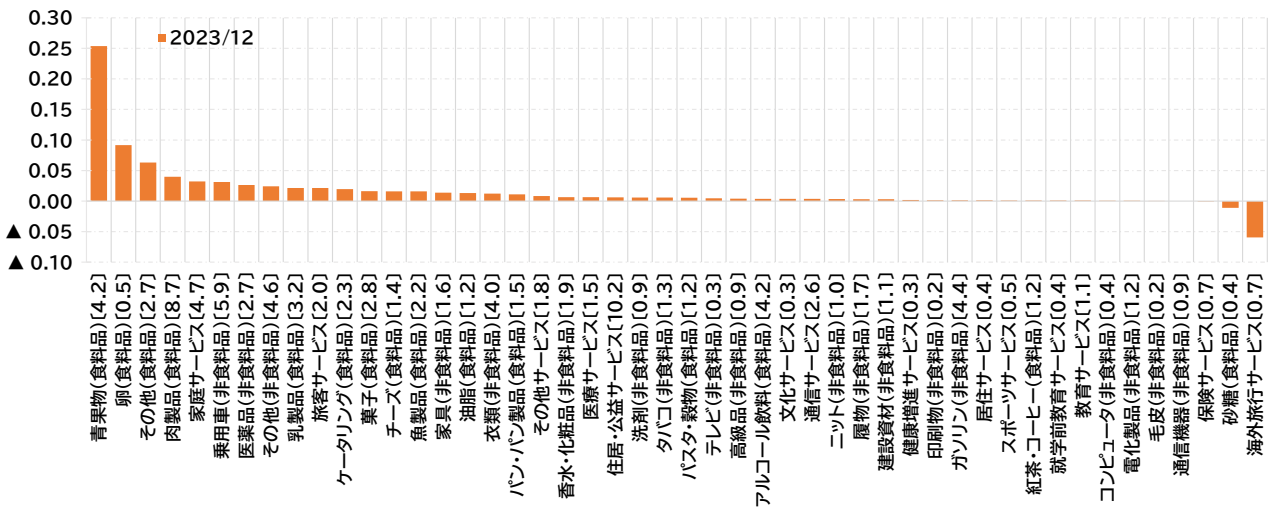


（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。